

2023年連続公開講演会

統一テーマ：21世紀の精神のシルクロード——平和への道筋を考える

■開催趣旨

ウクライナ危機から1年が過ぎ、その悲惨さや内実がメディアで報道され続ける一方で、戦争が日常へとなりつつある危機感も広がっている。大国の思惑や国連の機能不全、分断を引き起こす要因の一つでもあるコロナによるパンデミック。「この数十年というもの、私たちは飢饉と疫病と戦争を首尾良く抑え込んできた」といった言説が、いかにもろいものであったかを私たちは目の前で起きている出来事から知らざるを得ない。

東洋哲学研究所創立者である池田大作SGI会長は40年前（1983年）、1・26「SGIの日」を記念して平和構築への提言を発表した。その中において「先進国であると開発途上国を問わず、押しなべて保護主義的傾向を強め、一つカジ取りを間違えれば、世界は、破局へ向けて暴走を開始しかねない状況にあります。（中略）海図なき時代、先が読めない時代——様々な悲観的予測がなされておりますが、時代はまさに、巨大なカオス（混沌）に入ってきていると見てよい」と21世紀の問題を予見しつつ、「仏法者として、そうしたカオスを鋭く、冷静に見つめ、二十一世紀への血路を切り開いていかなければならない」と決意を披歴した。

以来、40回にわたって発信されてきた提言では、第3次世界大戦、核戦争の危機を回避し、人類を分断から連帯へ進めゆく哲学を訴えてきた。人類が今、21世紀のシルクロードたる地理的・文化的・歴史的なつながりを再認識し、共に生き、共に幸福を享受し、共に平和へと歩んでいくためには、一体何が必要なのか。創立者の「SGIの日」記念提言を紐解きながら、その方途を論じ合っていきたい。

以上